齒 科 外 科

開業醫ハ顔面竝ニ顎ノ外傷患者ニ就テ

何ヲ知ラネバナラヌカ

Was muß der Allgemeinpraktiker über

Unfallverletzten im Bereich des
Gesichtes und der Kiefer wissen?

von Jul. Steinkamm, Essen.

(Dtsch. Zahnärztl. Wschr., Jg. 40,

Nr. 21, S. 461, 1937.)

上下顎ノ模型ヲ正シク咬合器ニツケタラ次ニ「シーネ」ヲ作ル。齒牙ノ完全ニ揃ツテキル下顎ノ犬齒部ノ簡單ナ骨折ノ場合ハ、Drahtligatur デ充分デアアル。又アングルノ装置ノ様ニ強イ脣側弧線デニツノ帶環ヲ連結シタモノデ充分デアアル。シカシ骨折端ノ轉位ノ強イ場合ヤ上行枝ノ骨折ノ際ニハ簡單ナ Drahtschiene デハ不充分デアアル。脣側及ビ舌側弧線ヲ持ツタ Drahtschiene ヲ用ヒルト齒牙ニ帶環ヲ掛ケナクトモ大低ノ場合ニ治療ヲ行フ事カ出來ル。全部ノ齒牙ノアル場合ニハ、犬齒ニ帶環ヲ掛ケル事ハ脣側及ビ舌側弧線ヲツケルヨリモ患者ニ大ナル苦痛ヲ與ヘル (Abb. 1)。骨折ガ齒牙ノ存スル部分ニアル時ニハ、對顎ニ支持ヲ求メズトモ、ソノ顎ノミノ「シーネ」デ充分デアアル。數ヶ所ノ骨折及上行枝或ハ關節頭ニ於ケル骨折ノ様ニ齒牙ノ存在シナイ部分ニ骨折ノアル場合ニハ、健全ナ顎ニ支持ヲ求メネバナラナイカラ、上下顎ノ「シーネ」ガ必要トナル。骨折シタ顎ハ破折シタ側ニ片寄ルカラコレヲ防グタメニ健康側ヘ支持ヲツケル。ソノ最も簡單ナ方法ハ健康側ノ下顎ノ「シーネ」ニ太イ「ニツケル」線ノ棒ヲツケ上顎ノ「シーネ」ノ其レニ相當シタ場所ニ英ヲツケル。コノ「ニツケル」線ハ太サ3耗デ英ハ0.6耗ノ厚サノ「ニツケル」板デアアル。英ヲツケタ滑面棒ハ後ヘ向ツテ開イテキル。コノ裝置ハ下顎ノホヰ第二小白齒ノ部分ニツケ口角ヲ傷ツケヌ様ニシデアアル。下顎ノ複雑骨折ノ際ニハ脣舌ノニ Bügel ヲ持ツタ Schienenverband ヲ用ヒルノガヨイ。之ニヨリ脣側ノミノ「シーネ」ヨリモ骨折片ヲ確實ニヨク固定出來ル。之ニヨリ例ヘバ後下方ヘ轉位シタ重骨折ノ頤部

Abb. 1

下顎ニ於ケル帶環ヲ持タナイ脣側及ビ
舌側弧線ノ圖

Abb. 2

上顎右側
複雑骨折

前齒部缺
損セル下
顎ノ複雑
骨折

ヲ口外副木ヲ用ヒズニ正シイ位置ニ固定スル事モ出來ル。

次ニ上顎「シーネ」ハ如何ニシテ作ルベキカ。第一ニソノ骨折ガ上顎ノ一部ニアルカ、全部ニアルカラ定メ

ネバナラナイ。屢く起ル齒槽突起ノ骨折ハ脣側及ビ舌側弧線ニヨツテ容易ニ固定出來ル。片側ノ上顎ノ骨折ハ齒牙ノ揃ツテキルモノ、隙ノアルモノデモ健康側ヘ固定スル事が出來ル。上顎ノ全部性骨折ハ頭巾ヲ持ツタ口内及ビ口外副木ニヨツテ頭蓋底ヘ固定シナケレバナラナイ。著者ニヨルト上顎ノ「シーネ」ハ脣側及ビ舌側弧線ガ齒列ノ周リヲ取り卷ク様ニ作り且ツコノ「シーネ」ニ強サヲ與ヘルタメニ、硬口蓋ニ沿ツテ2ツ以上ノ横ニ走ル Bügel ヲ弧線ニ鑲著シテキル(Abb. 2)。無齒顎ノ「シーネ」ハ勿論非常ニ困難ナル。義齒ガアレバ非常ニ都合ガヨイ。コノ際ニハ上下ノ義齒ヲ針金ヲ全ク確實ニ結び、ソレヲソノ儘口腔ヘ入レ、頭部カラ頤部ニカケテ「ギブス」綿帶ヲ行フ。之ニヨリ骨折シタ顎ハ健全ナ顎ニ充分固定サレル。

「シーネ」ヲ如何ニシテツケルカ。

著者ハ35年間以上ニ涉ツテ澤山ノ負傷者ヲ扱ツテ脣側及ビ舌側弧線ガ非常ニ役ニ立ツタツ云ツテキル。コノ「シーネ」ノ方が帶環ヲツケタモノヨリモ齒牙ヲイタハル點デハ遙ニ優レテキル。勿論齒牙ガ2,3本シカ残ツテキナイ場合ニハ、帶環無シニ「シーネ」ヲツケル事ノ出來ナイ事ハ云フ迄モナイ。著者ハ「シーネ」ヲツケル時ニ次ノ如クスル。先ヅ骨折シタ顎ニ「シーネ」ヲ入レテ第一大白齒ヲ兩側共ニ「シーネ」ノ中ニ入レテ之ヲ緩ク結ビツケル。ソレニハ動脈鉗子ヲ用ヒテ針金ヲネジル。コレガ濟ンテカラ注意深ク骨折片ノ整復ヲスル。ソノ後上下顎共小白齒ト2,3本ノ前齒ヲ縛ル。粉碎骨折テ骨折片ノ整復ガ非常ニムズカシク、且ツ患者ニ大ナル苦痛ヲ與ヘル場合ニハ傳達麻酔ヲ行フ。上下顎ノ「シーネ」ヲ連結スル「ゴム」ノ環ハ骨折片ヲ徐々ニ然モ確實ニ正シイ咬合状態ニスル最モ安全ナ物ナル。

(清水武夫)

顔面頭蓋骨形成不全ノ知見補遺

Ein Beitrag zur Dysostosis craniofacialis.

von Prof. Dr. F. Kostecka. Prag

(Zeitschr. f. Stomatol. S. 113. Heft 1. 1937)

著者ハ顔面頭蓋骨形成不全ガ非常ニ稀ナ例デアツテ、多クノ場合ハ骨系統ノ遺傳性畸型ナルト述テ居ル。本例竝ビニ先天性畸型特ニ Cleidocranialis 形成不全ニ關シテ多數専門家ノ精細ナル記載アルモ、著者ハ手指畸型ヲ伴ヘル顔面頭蓋骨形成不全ノ1例ニ遭遇シ、特ニ治療法ガ頗ル興味アル爲ニ此處ニ報告スルモノナルト述ベテ居ル。

患者ハ現在17歳ノ學生デアツテ、6年前上顎齒牙萌出障碍、會話障碍竝ビニ榮養障碍等ノ主訴ヲ以テ診療所ヲ訪ズレタモノナル。當時患者ハ11歳ニシテ顔貌ヤ、大人ビ、一見兎脣、口蓋破裂等ノ整形手術不良ニ終リタル顔面ヲ呈シテキタ。X線診査ニテハ頭蓋、顔面部ノ發育良好ナルモ、鼻ハ巾廣ク、扁平ニシテ、上脣ハ短小、人中中部ハ陷入セル状態ヲ示ス。下脣正常頤門部發育不良ヲ呈スルモ、本例ハ主トシテ、上顎骨發育不全ニ原因セル爲ニ顔面不調ヲ來タシタモノト考ヘラレル。上顎ハ非常ニ矮小ニシテ且V42|124以外ノ齒牙ハ缺如シテ居ル。X線像ニ依レバコノV|ニ相當スル永久齒牙ヲ認メタトノ事ナル。

下顎ハ正常ニ發育シ、齒牙萌出ハ次ノ如シ。

(6V4321|1234V6)硬口蓋ハ高ク且ツV型ヲ呈シ、軟口蓋ハ稍ク左側小ニシテ、口蓋弓缺如ス。

手指ハ興味アル畸型ヲ呈シ、右手指ハ短指ニシテ、第2,第3指竝ニ第4,第5指ハ各癒合セルタメニ早期ニ整形手術ヲ行ツタモノナルニ反シ、左手指ハ稀有ナル掌骨體ノ畸型ヲ呈シ、2,3掌缺如又ハ癒合ヲ呈シテ居ル。其ノ他ノ身體各部ニ於テハ畸型ヲ認メナイ。

既往症トシテ5歳ノ時猩紅熱ヲ經驗シタ外ハ別ニ疾患ヲ經驗シタ事ガ無イ。乳齒萌出ハ15ヶ月ヲ要シタガ完全萌出デアツタト述ベテ居ル。尙永久齒ノ萌出ハ7歳ノ時ニ認メラレタ。

家族歴トシテハ父親母親共ニ健在ナルモ、父ハ輕度ノ Progenie ナル。姉ハ正常ナル發育及ビ咬合ヲ有シテ居ル。Lues ハ家族ニハ無ク、又家族系類モW氏反應ハ陰性ナル。尙小供ノ精神狀態ハ正常デアツテ、體重40kg,身長149cmニシテ11歳ノ小兒トシテハ頗ル正常ナル體質ト認メラル。

治療 上顎ヲ突出セシムル矯正療法ハ1ケ年間繼續セルモ效果無ク失敗ニ終ツタ。其處テ著者ハ此ノ様ナ患者ノ場合ニ於テハ上顎義齒ヲ裝著セシメ咬合狀態及ビ咀嚼能力ノ恢復ヲ計ルト同時ニ顔面矯正ノ實ヲアゲル補綴の方法ヲ推奨シテ居ル様ナル。補綴的方法ヲ述ベルトV4|24ニKroneヲ施シ、鑲著シテ、保持點ヲ求メタルナル。其ノ結果ハ明ラカニ少々機能のニモ外貌的ニモヤ、満足セララルモノヲ得タ。會話ニ關シテハ練習スル事ニ依ツテ正常トナツタト述ベテ居ル。義齒ハ2年後ニV|脱落シタ爲ニ再調製ヲ成シタガ15歳ノ時、義齒ノ調子惡ク、且下顎ガ